

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1) 新設組織の概要	P. 2
①新設組織の概要（名称，入学定員，編入学定員，収容定員，所在地）	
②新設組織の特色	
(2) 人材需要と社会的動向	P. 4
①新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析	
②中長期的な 15 歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析	
③新設組織の主な学生募集地域	
④既設組織の定員充足の状況	
(3) 学生確保の見通し	P. 9
①学生確保に向けた具体的な取り組みと見込まれる効果	
②競合校の状況分析	
③先行事例分析	
④人材需要に関するアンケート調査等	
(4) 新設組織の定員設定の理由	P. 20

(1) 新設組織の概要

① 新設組織の概要（名称、入学定員、編入学定員、収容定員、所在地）

新設組織	入学定員	収容定員	所在地
創造デザイン工学科	200 名	1、000 名	鹿児島県霧島市 隼人町真孝 1460-1

② 新設組織の特色

現在の鹿児島高専の学科構成は、機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、情報工学科、都市環境デザイン工学科の 5 学科である。それぞれの学科の定員は 40 人である。新設組織では、現在の 5 学科制を廃止し、1 学科 3 類 5 コース制とする。各コースの定員は 40 人であり、1 学年の定員は 200 人で変更はない。

【新組織の特色】

新学科の特色として、図 1 に示したように 1 学科 3 類 5 コース制を取る。3 類 5 コース制を採用することで、社会のニーズに柔軟に対応しつつ、高度な専門性を備えた人材を育成する。各類の特徴として、Ⅰ類は高度情報専門人材を育成する類、ⅡとⅢ類は高度創造専門人材を育成する類である。各コースの専門分野は後述する。

まず、1 年次には混合クラスを採用することで、専門分野の垣根を越えた基礎教育を行う。学生は各コースで学ぶ内容を理解した上で、2 年進級時にコースを選択する。また、全てのコースにおいてデータ活用を目的とした数理情報系の基礎教育を行う。1～4 年次にコース横断科目であるリベラルアーツ教育、デザイン教育を行う。また創造性を涵養するための PBL 型教育を行う。さらに、他コースの専門科目の受講、コースの垣根を超えた卒業研究テーマの選択を可能とすることで、深い専門性と総合知を兼ね備えた人材を育成する。

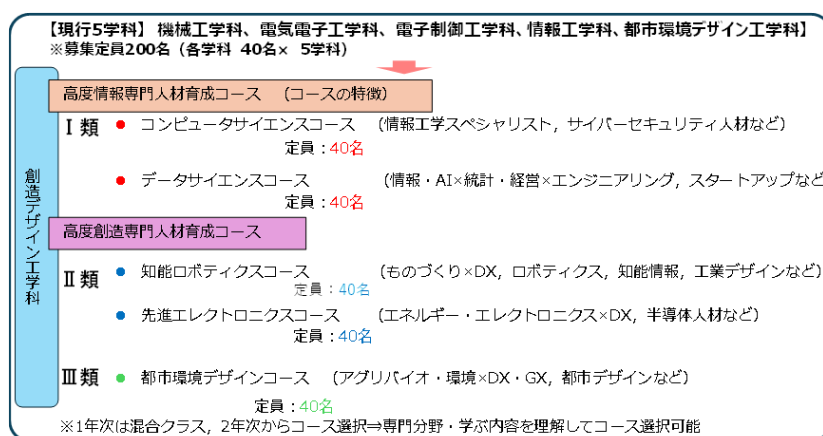


図 4 新学科（創造デザイン工学科）の構成（1 学科 3 類 5 コース）

※「設置の趣旨等を記載した書類」より再掲

【設置しようとする学科等の役割、重点的に担う機能】

I 類は高度情報専門人材の育成を重点的に担う。

I 類コンピュータサイエンスコースでは、高度な情報理論を応用し、電子計算機をデータ処理等の中核にした情報システムを設計、構築できる情報スペシャリスト（高度情報エンジニア）を育成する。そのために、情報理論、通信工学、人工知能、論理回路、電子計算機などに関する学習を行う。

I 類データサイエンスコースでは、情報工学に AI 活用技術や統計学や経営工学、ビジネスの知見を加えて、データを活用し新しい価値創出や社会問題解決に貢献するデータサイエンス人材あるいはスタートアップ人材を育成する。そのために、データ科学とその応用、経営・ビジネス、確率・統計等に関する学習を行う。

II、III類は高度創造専門人材の育成を重点的に担う。

具体的には以下、3つのコースを設置する。

(ア) II類知能ロボティクスコースでは、あらゆるものづくりや産業、科学技術の高度化、DX化を実現する人材を育成する。

(イ) II類先進エレクトロニクスコースでは、エネルギーやエレクトロニクス、半導体などに関連した産業、科学技術の高度化、DX化を実現する人材を育成する。

(ウ) III類都市環境デザインコースでは、アグリ・バイオ分野、インフラストラクチャ、都市デザインなどに関連した産業、科学技術の高度化、DX化を実現する人材を育成する。

上述のように、II、III類についても、情報データ科学教育を拡充する。具体的には情報リテラシー、プログラミング、AI 活用、データサイエンス等に関する基礎知識を学生が身に着ける教育を実施する。さらに、PBL 科目である「創造デザイン工学 I～IV (仮)」を設置し、この科目において情報データ科学に関する知識・技術と工学専門知識を融合させ、DX や社会問題解決を実現する力を実践的に育成する。創造工学は企業や地域・自治体、大学などと連携して実施する。また、コース横断、学年縦断型での PBL 型教育を展開し学年やコースをシームレスにつなぐ DX 人材育成教育を推進する。また、数理・データサイエンス・AI 教育における応用基礎レベルの認定を目指す。

これらの DX 人材育成教育は、学内に設置する DX 教育推進センターが中心となって推進する。また、第一線で活躍する社会人やエンジニアを“副業先生”として積極活用し、教育の質の向上を図る。

いずれのコースにおいても養成する人材の学位分野は工学である。

(2) 人材需要の社会的動向

① 新設組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

[1] 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

【養成する人材像】

本校の教育研究の目的は、Well-being な社会の実現に貢献することである。この目的の達成のための人材養成が本校の果たすべき役割である。具体的には「ものづくりの基盤となる工学専門知識」に、AI やプログラミングを含む情報データ科学やリベラルアーツ、デザイン等の分野横断的知識・技術を融合させ、根拠のある意思決定や問題解決ができる総合知を有する人材を養成する。具体的な教育目標として以下を定め、全ての学生に対して以下を養成する教育を行う。

1. 国際的に通用する創造性豊かで人格に優れた人材の養成
2. 社会的・経済的価値のある未来の技術を創る人材の養成
3. 地域や国際社会の産業、文化を支える人材の養成

【教育研究上の目的】

全ての学生が以下の素養・能力を身に着けることが教育研究の目的である。

(1) 鹿児島高専の強みである「ものづくりの基盤となる工学専門知識」に、AI やプログラミングを含む情報データ科学に関する知識・技術を融合させ、根拠のある意思決定や問題解決を行う DX 人材としての基礎力。

(2) 工学だけでなく、人文社会学、リベラルアーツなど幅広い分野を横断する知見。

(3) アイデアを具現化する、あるいは価値を創造・表現するためのデザインスキル。

② 高度情報専門人材育成コースでは、以下の素養・能力を養成することが教育研究の目的である。

(1) コンピュータサイエンス分野に関する体系的な知識と技術、および高度情報化社会の基盤を支える深い専門知識。(I 類コンピュータサイエンスコース)

(2) 情報工学に統計学や経営工学の知見を加え、データを活用して新しい価値創出や社会問題解決に貢献するデータサイエンス人材としての能力。(I 類データサイエンスコース)

③ 高度創造専門人材育成コースでは、基幹産業や科学技術の発展に資する創造性を有する工学分野の専門人材を育成することが教育研究の目的である。

(1) II 類知能ロボティクスコースは、機械・制御系コースで、あらゆるものづくりや産業、科学技術の高度化、DX 化を実現する能力を育成する。

(2) II 類先進エレクトロニクスコースは、電気・電子系コースで、エネルギーやエレクトロ

ニクス、半導体などに関連した産業、科学技術の高度化、DX化を実現する能力を育成する。
(3) III類都市環境デザインコースは、土木・環境・建築系コースで、アグリ・バイオ分野、インフラストラクチャ、都市デザインなどに関連した産業、科学技術の高度化、DX化を実現する能力を育成する。

特に研究においては、大学や企業、地域との共同研究を推進する。さらに他コースとの複合・融合による新しい領域の研究を推進する。

[2] 上記 [1] が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠（分析）

【社会的人材需要の分析】

まず、改組により新たに新設する高度情報専門人材需要に関して、高度情報化社会の基盤を支える深い専門知識を有する人材の育成が必要なことは明らかである。また、データサイエンス分野の人材需要について、本校の実際を踏まえた分析結果を以下に説明する。データサイエンス協会の調査・研究（2015年～2020年）により、以下の事柄が明らかとなっている。

（データ元：https://www.datascientist.or.jp/common/docs/personal_research2020.pdf）

- イ) データサイエンティストが所属する企業・組織の業種は、IT・通信業務が多い（10～14%）。また、製造業（半導体、電機、電子、精密機器）では増加傾向にある（7→9%）。一方、農林水産業や建設土木業ではデータサイエンティストの活躍がいまだ少ない（1～2%）。
- ロ) データサイエンティストに求められるスキルセットは、3つに大別される。(1) ビジネス力（課題背景を理解した上でビジネス課題を整理し、解決する力）、(2) データサイエンス力（情報処理、人工知能、統計学などの情報科学系の知恵を理解し、使う力）、(3) データエンジニアリング力（データサイエンスを具体的に実装、運用する力）。
- ハ) 3つのスキルセットのうち、データエンジニアリング力を備えた人材が少ない（10%程度）。
- ニ) 多様な年齢層が「データサイエンティスト」に関心を持っており、特に10代、20代ではデータ分析業務に「将来性を感じている」割合が85%と高い。
- ホ) データ分析業務の人材育成に注力する企業や組織も増加傾向にある。
- ヘ) データサイエンティストに占める女性比率は増加傾向にある。
- ト) 以上の傾向から、鹿児島高専に高度情報専門人材育成のコースを設置し、データサイエンス人材育成を強化することは、社会の人材需要に適合する。
- チ) さらに、改組後に設置する高度情報専門人材以外のコース（高度創造専門人材育成の3コース）にて育成する人材も、社会ニーズに適合する。すなわち高度創造人材育成の3コースについては、かねてより産業界からの人材需要が高い。これにデジタル技術と専門知識の複合・融合する力、デザインスキルを強化することで、さらに産業や科学技術

の発展に貢献できる人材を育成する。

具体的には上記イ)に関連し、製造業や建築土木業はこれまでの本校が人材需要に応じてきた分野である。データサイエンスコース設置と人材育成により、今後ますます需要が高まると予想されるこれら分野への人材供給ができる。また、鹿児島県の主産業である第一次産業においてもデータサイエンスや科学技術の適用を積極的に推進することで、産業振興、地域振興に貢献する。さらにロ)、ハ)、ニ)に関連して、データサイエンスを社会実装するエンジニアリング力の育成は、本校の教育が得意とする領域であり、地域や企業と連携したPBL教育、インターンシップなどを活用し、これらの教育をさらに拡充する。

【地域的人材需要の分析】

図2は本校の過去10年間における求人倍率の推移を表しており、2019年までは増加している。2020年以降コロナ感染拡大に伴い、低下しているものの2023年には増加に転じ、コロナ禍前の状況に戻りつつある。近年では20倍以上で推移していることから本校が人材需要に応える高専であることは明らかである。さらに、このように上昇傾向にある求人倍率の中で本校における県内就職率が概ね20%を推移していることや、本校の産学官連携組織である鹿児島高専テクノクラブの会員企業数が直近10年で47社から99社と2倍以上に増加していることから地元企業からの期待値は高く、本校が地域的な人材需要に応えているといえる。

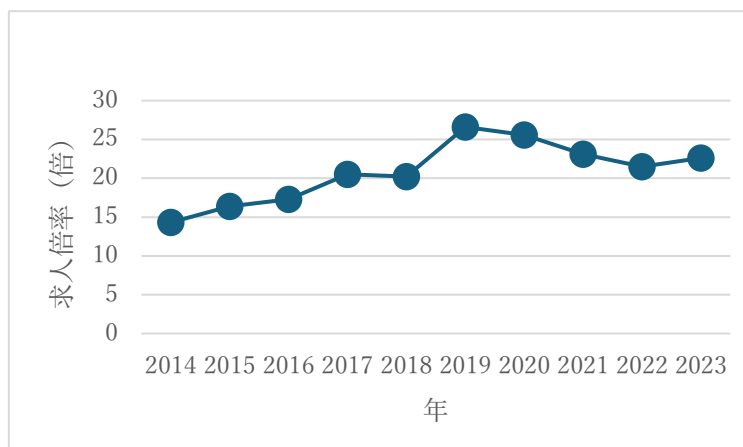


図2 本校における求人倍率の推移

さらに、この度の改組に先立ち、鹿児島高専の人材育成について地域企業（鹿児島高専テクノクラブ）を対象としたアンケート調査を行った（令和6年6月）。45社から回答が得ら

れた。得られた結果の詳細は後述（本資料、P. 18、Q5 の回答）するが、新しく設置を予定している 5 つのコースにまんべんなく人材育成のニーズがあること、高度情報専門人材の育成（コンピュータサイエンスコース、データサイエンスコース）に対する期待が大きいことが明らかとなった。

②中長期的な 15 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

【15 歳人口の推移】

図 3 は鹿児島県の出生数から推定した 15 歳人口推移を表している。令和 8 年度入学者以降、15 歳人口の急減が起きる。一方で、以下に説明する理由によって、本校における入学定員の確保は可能であると考えている。

（鹿児島県人口動態統計、<https://www.pref.kagoshima.jp/ae01/tokei/bunya/jinko/jinkodotai/r4.html>）

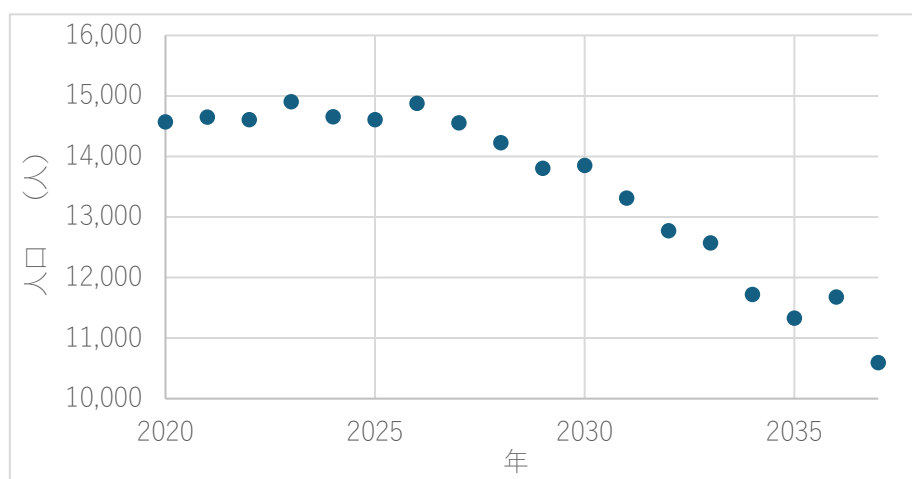


図 3 鹿児島県における 15 歳人口の推移

③ 新設組織の主な学生募集地域

鹿児島高専において、学生募集地域は基本的には鹿児島県内であり、鹿児島県外からの入学志願者は極めて少ない。この現状を踏まえて、鹿児島高専では鹿児島市、姶良市からの入学志願者増を図ることで、長期的に定員を確保する。現状と学生募集地域設定の妥当性は本資料 P. 13 に述べる。

さらに、県外からの入学志願者は極めて少ないと述べたが、改組後は県外からの入学志願者獲得も期待できる。すなわち、データサイエンスを専門的に学修できる学科・コース等を設置している高専は少なく、他の高専との学びの差別化ができる。高度情報専門人材に関する社会需要を鑑みて、鹿児島高専を受験する他県学生が増加することが期待できる。また、様々な媒体を通して県内外の中学生等に広報活動を行う。

④ 既設組織の定員充足の状況

鹿児島高専の定員充足状況を図4～6に示す。

まず、図4は、推薦入試における現5学科の志願者数推移を示している。近年、情報工学科、電子制御工学科、都市環境デザイン工学科の志願者が高い傾向がある。

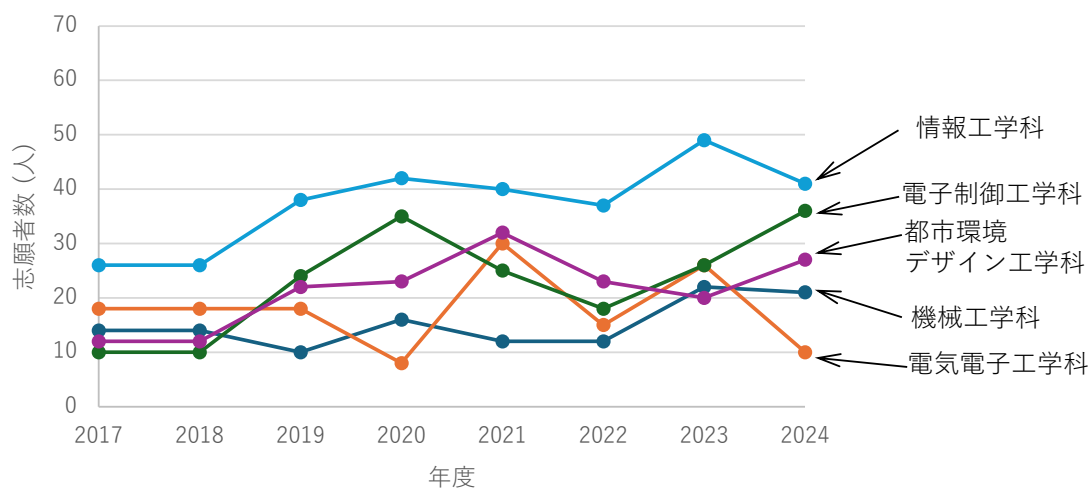


図4 推薦入試における志願者数の推移（学科別）

次に、図5は学力試験における現5学科の志願者数推移を示している。学力試験においても情報工学科の志願者数が高い。

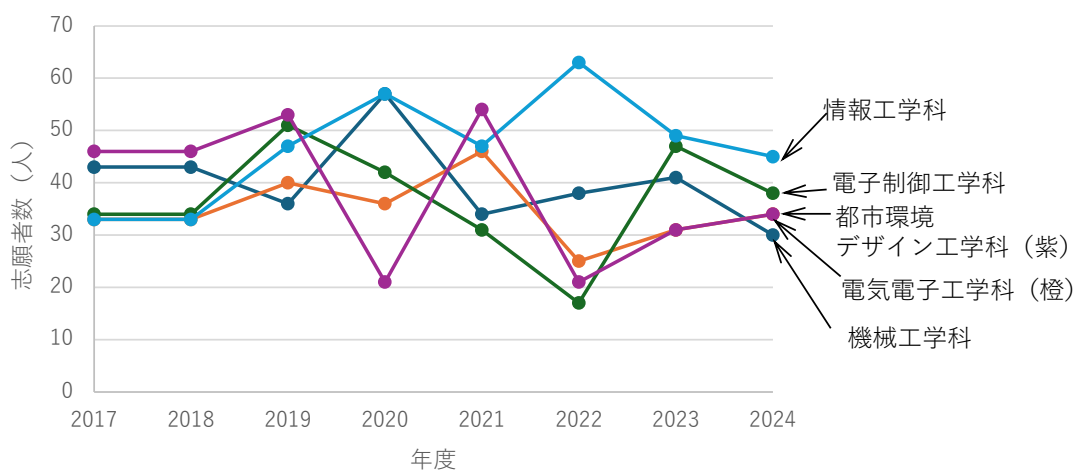


図5 学力入試における志願者数の推移（学科別）

図4、5に示したデータから求めた、現5学科の入学試験倍率を図6に示す。特に情報工学科の倍率が高く、2倍を超える。また、その他の4学科においても1～2倍の倍率を概ね維持している。後述する地域特性や競合校志願倍率と比較して、鹿児島高専の入学志願者は高い値であり、学科改組を行っても定員充足できると考えている。

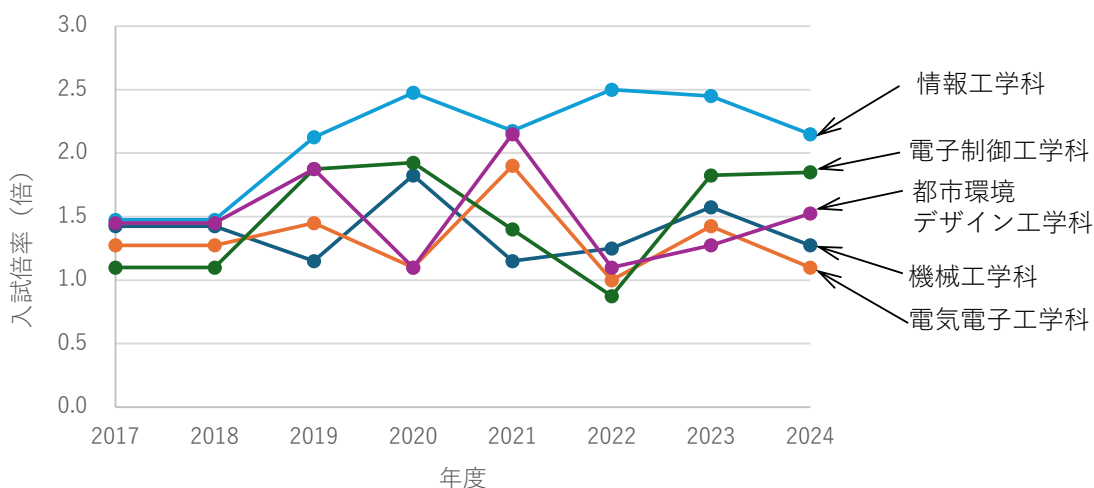


図6 学科別入学試験倍率（推薦入試志願者＋学力入試志願者）/定員

（定員充足の見通し）

上記のデータを踏まえた定員充足の見通しについては、P.13 から述べる。

(3) 学生確保の見通し

①学生確保に向けた具体的な取り組みと見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

（既設組織の過去の実績）

【1】オープンキャンパス

例年、8月に一日体験入学を開催しており、各学科のコースに分かれて実験・実習を体験し、各学科による展示物の見学、進学相談、学校説明会、施設見学等を行っている。さらに、令和5年度には「女子中学生のための茶話会」、「ロボギャルズワークショップ」、「部活動紹介」、「体験授業（数学）」など多彩なプログラムを実施しており、多くの受験生が参加している。表1は過去10年における一日体験入学の参加者数をまとめたものである。令和2～4年度はコロナ感染拡大のため中止となったが、参加者数は増加傾向にあり、特に情報工学科を希望する受験生が多く、令和5年度には全参加者の約1/3を占める。（令和2～4年度

は特設 HP を立ち上げ、バーチャルオープンキャンパスを実施)。参加した中学生へのアンケート結果から参加者 98.5%が体験した内容に満足しており、その効果は十分に認められた。

表 1 一日体験入学の参加者数

年	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
全参加者数	413	372	247	448	405				487
情報工学科参加者数	114	79	69	136	122				154

【2】公開講座、STEAM 教育支援、Robogals Kagoshima

・公開講座：小中学生を対象に実施しており、令和 4、5 年度には各 13 テーマ開設している。(今後実施予定も含む)。令和 4 年度における延べ参加者数は小中学生 97 名、保護者 74 名でアンケート調査の結果、97.8%が講座に満足しているとの結果が得られた。

・STEAM 教育：本校では令和 4 年度より STEAM 教育支援事業として、令和 4 年度より地域共同テクノセンター内に STEAM 教育支援室を設置し、霧島市教育委員会と連携して出前型講座と来校型講座を実施している。

・Robogals Kagoshima：国際的ボランティア団体である Robogals から、2017 年に日本で 3 番目の支部として認定を受け、技術者を目指す理工系女子の増加を目的に活動している。Robogals Kagoshima の主な活動は小中学生に向けた出前型のワークショップで工学を学ぶ楽しさを伝えるためにロボットのプログラミングを教えている。離島を含めた鹿児島県内様々なイベントに参加している。さらに、Robogals Kagoshima の活動は鹿児島県内に留まらず、海外との交流を行っており、2017 年にはオーストラリアで開催された世界会議 (Robogals SINE 2017) に出席し、活動報告を行っている。また、2018 年にはイギリス研修を行い、ワークショップに必要なスキルの研修や Robogals 設置予定の女子学生との交流、現地の学校における ICT 教育を見学している。

・その他、部活動 (ロボコンなど) による出前授業や学生ボランティアによるサイバー防犯教室などの広報活動を行っている。

【3】入試広報プロジェクトチームによる高校説明会

本校では令和元年度より効率的・効果的・持続的な入試広報を検討・実施・検証することにより安定的な志願者の確保に資することを目的とした入試広報プロジェクトチームを設置し、構成メンバーを高校説明会へ派遣することで魅力ある高専の PR 活動に努めている。訪問校数は約 70 校で県内中学校数の 1/3 に相当する。

イ。新設組織における取組とその目標

上記【1】～【3】を拡充して実施する。加えて、高専機構が主催する広報イベント、例えば KOSEN FAIR（国立高専合同説明会）や KOSEN EXPO 等を活用し、鹿児島高専の取り組みを広く発信するとともに、日本全国からの入学志願者獲得を目指す。

ウ。当該取組の実績の分析結果に基づく、新設組織での入学者の見込み数

鹿児島市、始良市から 24 人増（対定員比、12%増）、県外からの志願者（データサイエンスコース 3 人、その他のコース 3 人、合計 6 人増）（3%増）、30 人の志願者増を達成し、合計志願者 300 人（入試倍率 1.5 倍）を維持することを目標とする。

②競合校の状況分析

ア。競合校の選定理由と新設組織との比較分析、有意性

【競合校選定の観点】

以下 2 つの観点で競合校を選定した。

- ✓ 鹿児島県内のいわゆる進学校（偏差値 67～74 程度）、SSH 指定校 3 校を含む。
- ✓ 隣県の高専（都城高専）

なお、選定校の概要は、以下の表の通り。

表 2 競合校の定員規模、学問分野、所在地、学力層

競合校	定員規模	学問分野	所在地	学力層(偏差値)
公立高校 A	1 学年、40 人× 8 クラス	全日制普通科	鹿児島県鹿児島市	74 程度
公立高校 B	1 学年、40 人× 8 クラス	全日制普通科 (文系×3 クラス、理系×5 クラス) ※SSH 指定校	鹿児島県鹿児島市	70 程度
公立高校 C	1 学年、40 人× 8 クラス	全日制普通科 ※SSH 指定校	鹿児島県鹿児島市	68 程度
公立高校 D	1 学年、40 人× 8 クラス	全日制普通科	鹿児島県始良市	62 程度
公立高校 E	1 学年、40 人× 7 クラス	全日制普通科、 理数科 ※SSH 指定校	鹿児島県霧島市	61 程度
都城高専	4 学科	機械工学科、電	宮崎県都城市	63 程度

		気情報工学科、 物質工学科、建 築学科		
鹿児島高専	5 学科	機械工学、電気 電子工学、電子 制御工学、情報 工学、都市環境 デザイン工学	鹿児島県霧島市	66 程度

※偏差値参考データ：

高校偏差値。net(<https://xn--swqwd788bm2jy17d.net/kagoshima.php>)

【競合校との比較分析】

表 3 競合校との観点別比較

学校種(名)	比較の観点				
	入試時期	入学手続き 時期	学生納付金	就職支援	取得できる 資格
公立高校	3 月上旬	3 月中旬	0 円/年		
都城高専	推薦入試 1 月下旬 学力入試 2 月中旬	3 月上旬	234、600 円 /年		※別資料
鹿児島高専	推薦入試 1 月下旬 学力入試 2 月中旬	3 月上旬	234、600 円 /年		※別資料

イ。競合校の入学志願動向等

【鹿児島県公立高校の志願動向】

図 7 は鹿児島県内の公立高校の志願者倍率の状況である。鹿児島市内でいわゆる進学校とされる公立高校 3 校（図 7 の A、B、C。偏差値 67～74 程度）の志願者倍率は 1.2～1.5 倍程度で推移している。また、本校がある霧島市近隣の公立高校（図 7 の D、E。偏差値 62 程度）の志願倍率は 0.8 から 1 倍程度で推移している。さらに重要なポイントとして、鹿児島県公立高校の定員割れ割合は 88.2%に及ぶ（宮崎県 55.8%、全国平均 43.1%。NHK 調べ。）。

鹿児島市内の公立高校 3 校の志願者倍率が比較的高い値を維持できているのは、県内人

口分布によると考えられる。すなわち、各市の人口は霧島市 12 万人、鹿児島市 60 万人、始良市 8 万人程度であり、15 歳人口も鹿児島市に集中している。

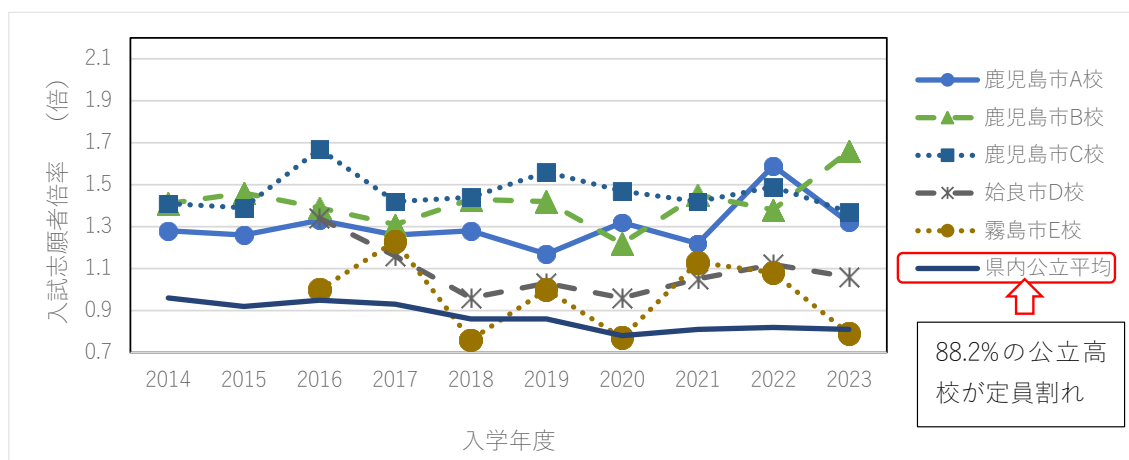


図 7 鹿児島県内公立高校の入学志願者倍率

【隣県の高専の志願動向】

次に、隣県の都城高専の入学志願動向について分析する。特に、情報系志願者の動向に注目し、情報系コースの拡充（改組）を行っても、定員充足が可能かを調査する。

図 8 は、本校（偏差値 66 程度）と都城高専（偏差値 63 程度）の志願者倍率の推移である。まず、本校の状況として、学校全体の志願者倍率は 1.3～1.5 倍程度で横ばいである。特筆すべきは、情報工学科の倍率で過去 5 年間は 1.7 倍～2.1 倍と顕著に高い。都城高専の志願者倍率も同様の傾向が見られる。情報工学系学科の入学志願者倍率を比較すると、本校のほうが都城高専よりも志願者倍率が高い。

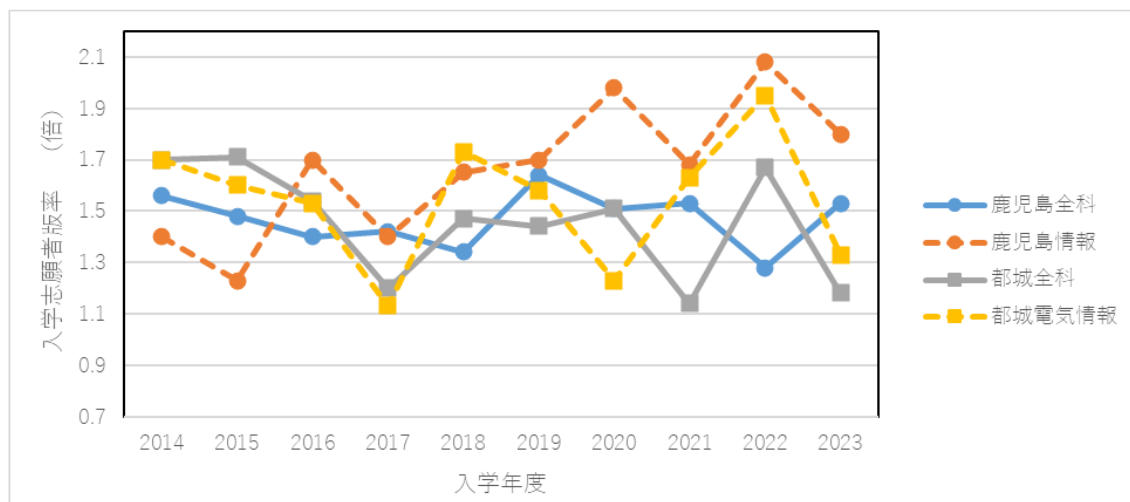


図 8 都城高専との入学志願者倍率の比較

以上より、本校の入学志願者倍率は地域の中で比較的高い入学志願者倍率を維持できて

おり、地域にとって魅力ある教育機関であることがわかる。特に情報工学科の志願者倍率や体験入学参加者アンケート等を見ても、鹿児島高専で情報系専門知識を学ぶことへのニーズが高い。したがって、情報系コースの拡充（改組）を行っても、定員充足が見込まれる。また、本校を受験する中学生の居住地の傾向や女子学生数において、今後改善の余地があるため、長期的に学生を確保できると考えている。その詳細は次に説明する。

ウ。新設組織において定員を充足できる根拠等

(1) 鹿児島市、始良市からの入学志願者増を図ることで、長期的に定員を確保する。

本校の入学者の自宅住所を見ると、約 7 割が霧島市、鹿児島市、始良市の 3 市に集中している。また、霧島市と鹿児島市に自宅がある学生数はほぼ同数であり、始良市に自宅がある学生数は霧島市に自宅がある学生の半数程度である。霧島市の人口が鹿児島市のその 1/6 程度であること、始良市の人口が霧島市のその 2/3 程度であることを考慮すると、鹿児島市と始良市から入学志願者を獲得することが今後の定員充足において重要である。先に述べたように、鹿児島市の公立高校 3 校の志願者倍率が 1.2～1.5 倍であること、近隣の高専（都城高専、熊本高専）の立地条件を考慮すると、鹿児島市と始良市からの入学志願者増を図ることは十分に可能である。

(2) 県外からの入学志願者獲得

高専機構（正式名称で書く）は、令和 4 年度より最寄り地受験制度を開始しており、受験生は自身が居住する他都道府県から鹿児島高専の入学試験を受けることができる。したがって、入学試験を受けるための経済的、地理的、時間的制約は少ない。さらに、鹿児島高専は定員 547 人の収容規模の学生寮が備わっており、県外からの入学者が鹿児島高専にて学修を行う環境は整っている。

最寄り地受験制度を利用した鹿児島高専受験者の数は 1 名（令和 4 年度）、1 人（令和 5 年度）と推移している。先に述べた KOSEN FIAR 等を活用し、日本全国から受験生を確保する。

(3) 女子学生の入学志願者増を図ることで、長期的に定員を確保する。

ここでは、本校の女子学生在籍状況を説明し、今後女子学生増を図る計画について説明する。まず、R5 年度の本校学生の女子比率は 18% であり、全国平均 22% よりも低い。次に、本校を受験した中学生に占める女子の割合の推移を図 9 に示す。過去 5 年間の傾向では、明らかな上昇傾向が見られる。本校における最近の女子学生数増加の一因は、後に述べる広報活動の成果と考えられる。

次に、本校で女子学生数が多い学科（都市環境デザイン工学科）の状況を説明する。図 10 は都市環境デザイン工学科の入学志願者の推移である。都市環境デザイン工学科では、2009 年（平成 21 年）に名称変更（土木工学科から都市環境デザイン工学科へ）を行った。名称変更後、入試倍率に増加傾向はみられない（図 10(a)）。一方で、当該学科における女子学生

数の増加は明らかであり（図 10(b)）、“デザイン”や“環境”を学ぶことに対する女子中学生のニーズを示している。本校では“デザイン”と“環境”は工学において重要な要素と考えており、育成する能力として“人類の未来と自然の共存をデザインする能力”を掲げている。これまでも“デザイン”や“環境”に関する教育・研究を行っていたが、改組によってこの分野の教育体制をさらに強化する。

加えて、本資料 P. 4、[2] へ）でも述べたように、“データサイエンス”を学修すること意欲関心を持つ女性の数は増加傾向にある。

したがって、今回の改組は女子学生の獲得につながるものであり、に地域への広報活動を強化することで女子学生の志願者増を図る。

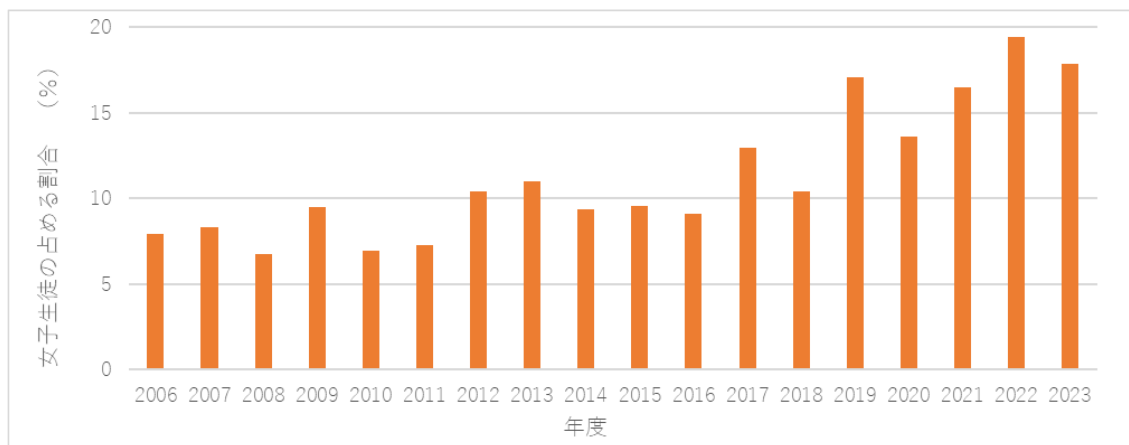


図 9 本校受験生（全体）に占める女子生徒の割合

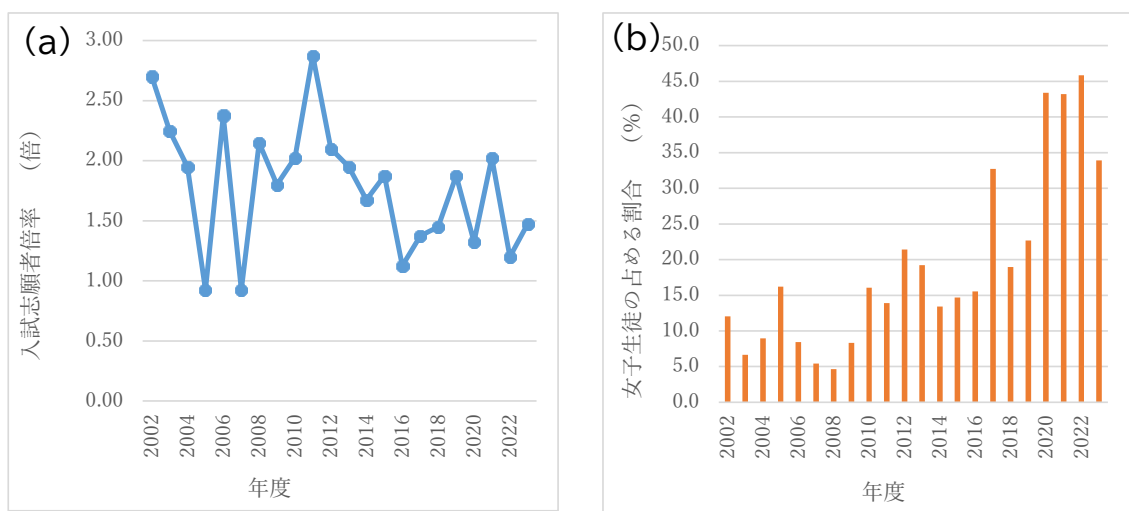


図 10 本校、都市環境工学科（土木工学科）入学試験状況

(a) 入試志願倍率、 (b) 受験生に占める女子生徒の割合

エ。学生納付金等の金額設定の理由

学生納付金の金額設定は、独立行政法人国立高等専門学校機構で統一された金額となっており、入学料が 84、600 円、授業料は年間 234、600 円となっている。

近隣の公立高校と比較すると高価となっているが、私立高校と比較すると同等程度である。高等学校等就学支援金を 1～3 年生までは受給でき、年収状況に応じて全額から半額程度の支援を受けられることとなっている。4 年生以上においては、同県の国立大学法人では、入学料が 282、000 円、授業料は年間 535、800 円となっていることから、高等教育機関の学生納付金額としては安価なものとなっている。

③先行事例分析

先行事例として、複数学科から単一学科への改組を行った高専の入学試験倍率の推移を調べた。調査は、中学生のために高専受験サイトに掲載されている情報をもとに行った。(高専受験計画、<https://xn--let357l.com/>)

最近 1 学科制への改組を行った有明高専（福岡県、H28 年度から改組）と米子高専（鳥取県、R3 年度から改組）の場合、改組前後で明らかな入学志願者の増加がみられる。

例えば、米子高専では、改組前（R2 年度）の入学試験（学力試験）の倍率約 1.2 倍に対して、改組後（R3 年度）の同倍率は約 1.5 倍、R4 年度は約 1.7 倍である。また、有明高専では、改組前（H27 年度）の入学試験（学力試験）の倍率約 1.2 倍に対して、改組後（H28 年度）の同倍率は約 2.4 倍、H29 年度は約 2.0 倍である。

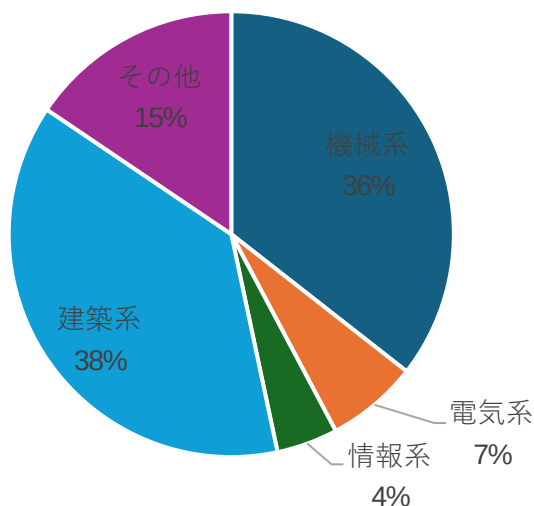
以上の結果より、複数学科制から 1 学科制への改組を行うことは、受験生獲得に有効と判断する。

④人材需要に関するアンケート調査等

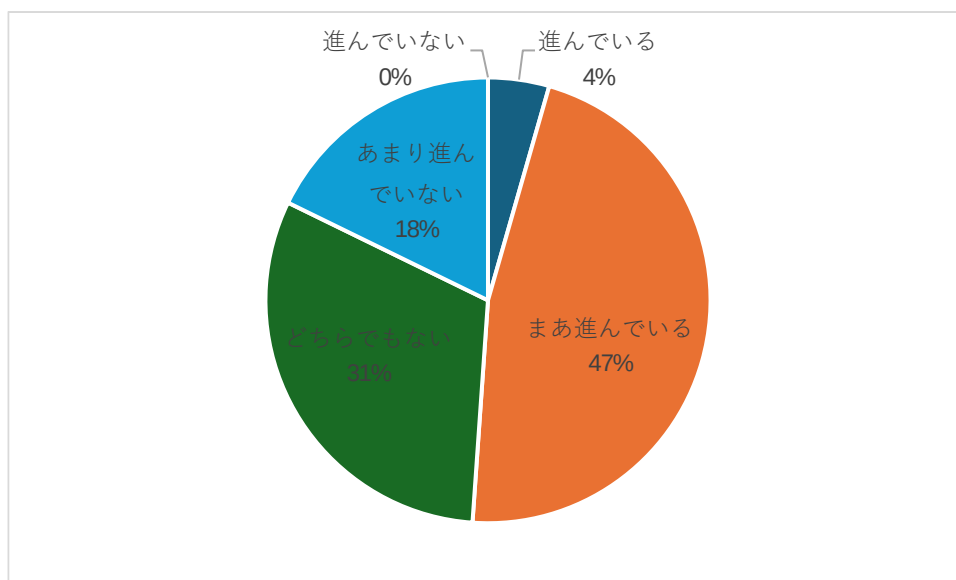
【鹿児島高専に期待する人材育成、ニーズに関するアンケート】

今回の改組計画（高度情報専門人材、高度創造専門人材）を踏まえて、鹿児島高専テクノロジークラブ（KTC）に所属する企業など 102 社を対象に鹿児島高専に期待する人材育成、ニーズに関する追加調査を行った（令和 6 年 6 月）

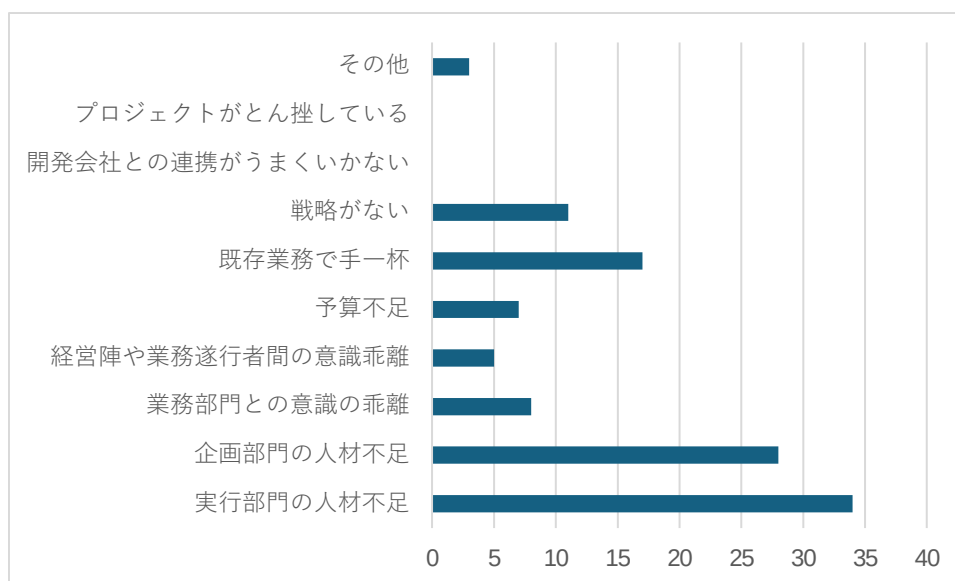
Q1 貴社の専門分野



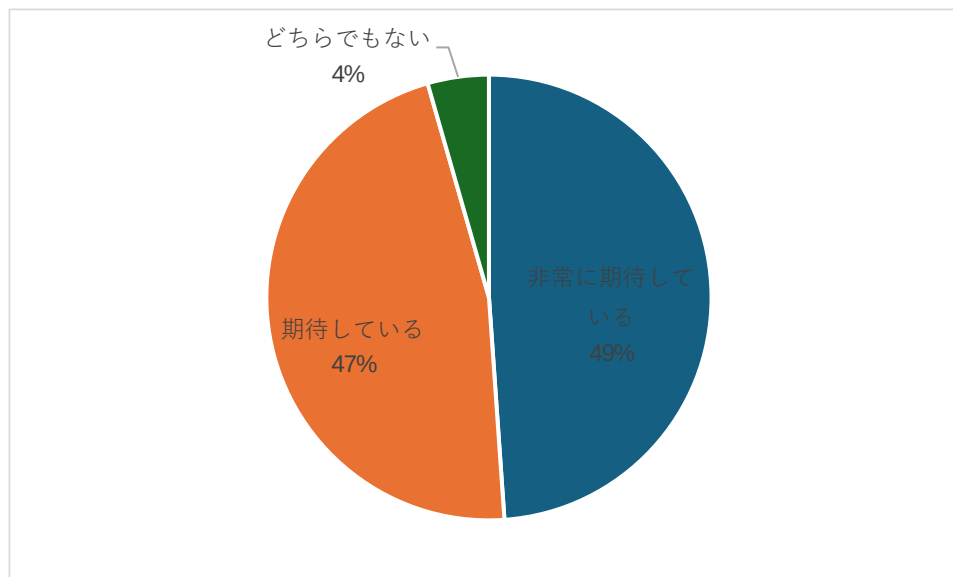
Q2 貴社のデジタル化、DX の進捗状況



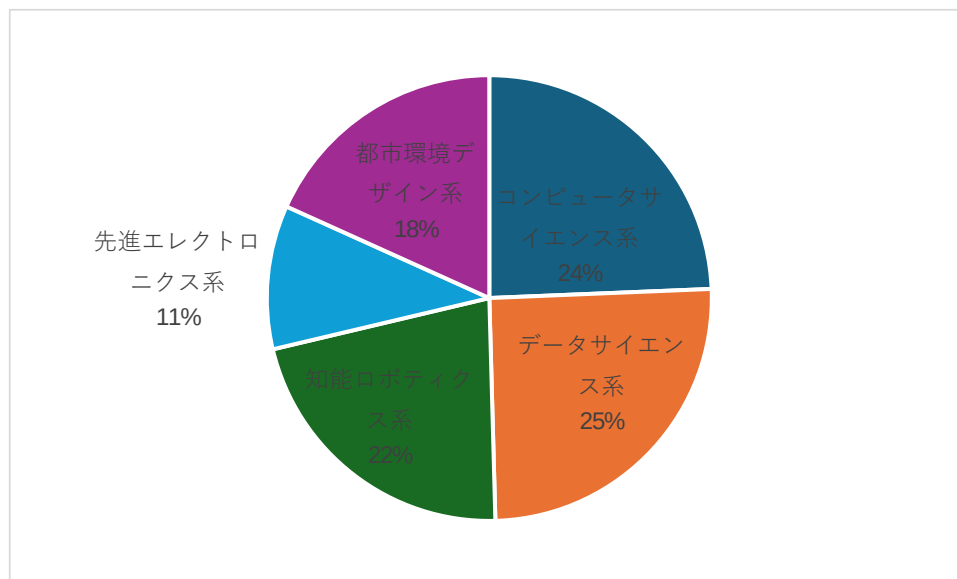
Q3 デジタル化、DX 化を推進する上での課題



Q4 DX、デジタル人材の育成に関して鹿児島高専に期待するか



Q5 今後どのような分野の人材が活躍できると考えているか



Q6 その他要望（自由記述）

- 一番重要なことは、言うまでもなく基礎技術の習得ですが、その上で学習内容の選択集中を行って、DX、デジタル技術など先進的なことを学んでほしいです。
- 歴史ある従来学科の専門性を引き継ぎながら、数理的思考力やデータ活用の学びを深められること、社内の通信ネットワークを管理構築運用できる人材育成に特に期待致します。
- 改組、非常に期待しております。
- どの分野でもデジタルスキルは必要不可欠と思います。どのコースにおいても最初は基礎学習としてデジタルスキルを身につけるプログラムを組んで欲しいです。
- 都市環境デザイン系に興味を持ち、地元で学んだ知識を活かしたいという学生が一人でも増えることを願っております。
- 更に特異性を持った学校になる事を致します。
- DX や専門的な知識を持った人材の育成に期待しております。
- 貴校で学んだ学生様が、ぜひ県内企業で活躍されることを期待しております。
- 時代に即応した対応かと思います。私は、建設業を営んでおりますが、ICT等の推進と同時に、自然災害が頻発している現状にしっかりと対応していける人材の育成も不可欠かと思っています。自然災害とは切っても切れない様な関係にある鹿児島の専門校としての取り組みにも、期待しております。災害現場での初期対応は、ほぼ100パーセント、アナログです。
- 新学科制により、更なる専門知識を有したレベルの高い学生を大変期待しております。
- 高専生のさらなる専門知識の修得、技術の向上に期待しています。
- 当社は毎年、鹿児島高専・都市環境デザイン工学科からの卒業生に入社して頂いており

ます。(この16年間で15名が入社／定着率9割程度) 継続して都市環境デザイン工学科卒人財と、併せて「DX推進・AI社内活用等人財」の高専卒生がいらっしゃれば、これも毎年のように採用したい、希望を強く持っています。

- 弊社は設備設計会社なので、鋼材・部材の図面作成だけでなく、建築・設備関係の図面も基礎知識として教えていただけるとより助かります。
- 調査頂くことで企業として意識改革の必要性を感じます。ありがとうございます。
- DXを考える際に必要なものとしてGXもあげられる。超長期的な視点からもここは避けては通れない。一方で、少子化の流れからもAIの活用をはじめとした省力化は必須事項であろう。従って、そこに向けた人材が必要なことは必然でもある。Z世代といわれる人の活かし方が問われている。α世代も台頭することを踏まえた教育が問われる中、本事業への期待は大きい。
- こういったアンケート回答はこまめに答えていきたいと思いますし、良い施策ではないかと思います。今後も宜しくお願い致します。

以上に述べたように、企業はデジタル人材、DX人材を必要としている(Q2、Q3)。また、この人材育成に対して鹿児島高専への期待は非常に大きい(Q4、Q6)。さらに、改組計画にあげている5つのコースそれぞれに、人材育成ニーズがあることが明らかとなった(Q5、Q6)。

(4) 新設組織の定員設定の理由

以上に述べた地域特性の調査により、社会情勢を反映して鹿児島県においても情報工学系の学びに関する入口ニーズが高いこと、DX人材育成等に関する社会ニーズ(出口ニーズが高いこと)、さらに従来鹿児島高専が担っていた社会基盤を支える技術者の育成に関するニーズも高いことが分かった。社会ニーズに関しては、今回の改組で計画する5つのコースに等しくニーズがあることが分かった。したがって、新設組織の定員を各コース40人とする。

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比	(R7年度)
1	鹿児島県	280人	98.6%	
2	宮崎県	4人	1.4%	
3			0.0%	
4			0.0%	
5			0.0%	
	全 体	284人	100.0%	

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	鹿児島県	107.84%	107.35%	107.65%
2				

※2校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	理・工学系	107.84%	107.35%	107.65%
2				

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
学校推薦型選抜	募集人数	20人	20人	20人	20人	20人	20人
	延べ人数						
	志願者数	16人	12人	12人	43人	43人	25人
	受験者数	16人	12人	12人	43人	43人	25人
	合格者数	16人	11人	12人	20人	20人	15.8
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	16人	12人	12人	22人	21人	16.6
	志願者数	16人	12人	12人	22人	21人	16.6
	受験者数	16人	11人	12人	20人	20人	15.8
一般選抜	募集人数	20人	20人	20人	20人	20人	20人
	延べ人数						
	志願者数	132人	114人	110人	117人	105人	115.6
	受験者数	129人	113人	110人	117人	103人	114.4
	合格者数	26人	31人	30人	22人	22人	26.2
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0.2
	実人数	60人	49人	44人	47人	30人	46
	志願者数	60人	49人	44人	47人	29人	45.2
	受験者数	58人	48人	44人	47人	22人	26.2
共通テスト利用入試	募集人数	26人	30人	30人	22人	22人	26
	延べ人数						
	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
合計	募集人数	40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数						
	志願者数	148人	126人	122人	160人	148人	141人
	受験者数	145人	125人	122人	160人	146人	140人
	合格者数	42人	42人	42人	42人	42人	42人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	76人	61人	56人	69人	51人	63人
	志願者数	74人	60人	56人	69人	50人	62人
	受験者数	42人	42人	42人	42人	42人	42人
入学定員充足率	募集人数	40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数						
	志願者数	148人	126人	122人	160人	148人	141人
	受験者数	145人	125人	122人	160人	146人	140人
	合格者数	42人	42人	42人	42人	42人	42人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	76人	61人	56人	69人	51人	63人
	志願者数	74人	60人	56人	69人	50人	62人
	受験者数	42人	42人	42人	42人	42人	42人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入学定員充足率	1.05	1.03	1.05	1.05	1.05	1.05
歩留率	1.00	0.98	1.00	1.00	1.00	1.00

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

- ①学校選抜型推薦及び一般選抜のいずれも、実人数の箇所は、当該学科を第１志望とした人数を記載している。
- ②学校選抜型推薦について、令和２～４年度は第１志望学科のみの選抜、令和５・６年度は、第２志望学科までを含めた選抜のため、令和５・６年度の延べ人数の箇所は、当該学科を第１志望及び第２志望とした人数の合計を記載している。
- ③一般選抜による選抜について、延べ人数の箇所は、当該学科を第１～３志望とした人数の合計を記載している。
- ④一般選抜の受験者のうち、学校推薦型選抜で不合格となった人数は以下のとおり（同一受験生が、学校推薦型選抜を受験後に一般選抜を受験）。

R2：１名（他学科から志望変更）、R3：１名、R4：０名、R5：２名、R6：０名

大学学部学科等名：電気電子工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
学校推薦型選抜	募集人数	20人	20人	20人	20人	20人	20人
	延べ人数						
	志願者数	8人	30人	16人	58人	41人	31人
	受験者数	8人	30人	16人	58人	41人	31人
	合格者数	8人	22人	16人	21人	20人	17.4
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数						
	志願者数	8人	30人	16人	26人	10人	18
	受験者数	8人	30人	16人	26人	10人	18
一般選抜	募集人数	20人	20人	20人	20人	20人	20
	延べ人数						
	志願者数	141人	138人	110人	141人	127人	131.4
	受験者数	139人	137人	108人	139人	124人	129.4
	合格者数	34人	20人	26人	21人	22人	24.6
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
	実人数						
	志願者数	50人	41人	32人	32人	34人	37.8
	受験者数	50人	41人	31人	32人	34人	37.6
共通テスト利用入試	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
その他の特別選抜	募集人数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
合計	募集人数	40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数						
	志願者数	149人	168人	126人	199人	168人	162人
	受験者数	147人	167人	124人	197人	165人	160人
	合格者数	42人	42人	42人	42人	42人	42人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
	実人数						
	志願者数	58人	71人	48人	58人	44人	56人
	受験者数	58人	71人	47人	58人	44人	56人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入学定員充足率	1.05	1.05	1.03	1.05	1.05	1.05
歩留率	1.00	1.00	0.98	1.00	1.00	1.00

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

①学校選抜型推薦及び一般選抜のいずれも、実人数の箇所は、当該学科を第１志望とした人数を記載している。

②学校選抜型推薦について、令和２～４年度は第１志望学科のみの選抜、令和５・６年度は、第２志望学科までを含めた選抜のため、令和５・６年度の延べ人数の箇所は、当該学科を第１志望及び第２志望とした人数の合計を記載している。

③一般選抜による選抜について、延べ人数の箇所は、当該学科を第１～３志望とした人数の合計を記載している。

④一般選抜の受験者のうち、学校推薦型選抜で不合格となった人数は以下のとおり（同一受験生が、学校推薦型選抜を受験後に一般選抜を受験）。

R2：２名（他学科から志望変更）、R3：８名、R4：０名、R5：５名、R6：２名（他学科から志望変更）

大学学部学科等名：電子制御工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

1. 各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
総合型選抜	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
学校推薦型選抜	募集人数	20人	20人	20人	20人	20人	20人
	延べ人数	35人	25人	24人	69人	62人	43人
	志願者数	35人	25人	24人	69人	62人	43人
	受験者数	21人	20人	21人	20人	20人	20.4
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	35人	25人	24人	26人	36人	29.2
	志願者数	35人	25人	24人	26人	36人	29.2
	受験者数	21人	20人	21人	20人	20人	20.4
一般選抜	募集人数	20人	20人	20人	20人	20人	20
	延べ人数	119人	100人	97人	150人	111人	115.4
	志願者数	117人	99人	95人	147人	107人	113
	受験者数	21人	22人	21人	22人	22人	21.6
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0.2
	実人数	32人	34人	24人	44人	38人	34.4
	志願者数	32人	33人	24人	43人	37人	33.8
	受験者数	21人	22人	21人	22人	22人	21.6
共通テスト利用入試	募集人数	21人	22人	21人	22人	21人	21.4
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
その他の特別選抜	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
合計	募集人数	40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	154人	125人	121人	219人	173人	158人
	志願者数	152人	124人	119人	216人	169人	156人
	受験者数	42人	42人	42人	42人	42人	42人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	67人	59人	48人	70人	74人	64人
	志願者数	67人	58人	48人	69人	73人	63人
	受験者数	42人	42人	42人	42人	42人	42人
入学定員充足率	募集人数	40人	40人	40人	40人	40人	40
	延べ人数	154人	125人	121人	219人	173人	158人
	志願者数	152人	124人	119人	216人	169人	156人
	受験者数	42人	42人	42人	42人	42人	42人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	67人	59人	48人	70人	74人	64人
	志願者数	67人	58人	48人	69人	73人	63人
	受験者数	42人	42人	42人	42人	42人	42人

3. 入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平均
入学定員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入学定員充足率	1.05	1.05	1.05	1.05	1.03	1.05
歩留率	1.00	1.00	1.00	1.00	0.98	1.00

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

- ①学校選抜型推薦及び一般選抜のいずれも、実人数の箇所は、当該学科を第1志望とした人数を記載している。
- ②学校選抜型推薦について、令和2～4年度は第1志望学科のみの選抜、令和5・6年度は、第2志望学科までを含めた選抜のため、令和5・6年度の延べ人数の箇所は、当該学科を第1志望及び第2志望とした人数の合計を記載している。
- ③一般選抜による選抜について、延べ人数の箇所は、当該学科を第1～3志望とした人数の合計を記載している。
- ④一般選抜の受験者のうち、学校推薦型選抜で不合格となった人数は以下のとおり（同一受験生が、学校推薦型選抜を受験後に一般選抜を受験）。

R2：12名、R3：5名、R4：3名、R5：4名（うち2名他学科から志望変更）、R6：11名

大学学部学科等名：情報工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
学校推薦型選抜	募集人数	20人	20人	20人	20人	20人	20人
	延べ人数	42人	40人	49人	57人	51人	48人
	志願者数	42人	40人	49人	57人	51人	48人
	受験者数	21人	20人	20人	21人	20人	20.4
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	42人	40人	49人	49人	41人	44.2
	志願者数	42人	40人	49人	49人	41人	44.2
	受験者数	21人	20人	20人	21人	20人	20.4
一般選抜	募集人数	20人	20人	20人	20人	20人	20
	延べ人数	86人	69人	77人	72人	66人	74
	志願者数	84人	67人	74人	69人	64人	71.6
	受験者数	21人	22人	22人	21人	22人	21.6
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0.2
	実人数	41人	39人	39人	37人	45人	40.2
	志願者数	39人	39人	36人	35人	43人	38.4
	受験者数	21人	22人	22人	21人	22人	21.6
共通テスト利用入試	募集人数	21人	22人	22人	20人	22人	21.4
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
その他の特別選抜	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						
合計	募集人数	40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	128人	109人	126人	129人	117人	122人
	志願者数	126人	107人	123人	126人	115人	119人
	受験者数	42人	42人	42人	42人	42人	42人
	合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	実人数	83人	79人	88人	86人	86人	84人
	志願者数	81人	79人	85人	84人	84人	83人
	受験者数	42人	42人	42人	42人	42人	42人
	募集人数						
	延べ人数						
	志願者数						
	受験者数						
	合格者数						
	うち追加合格者数						
	辞退者数						
	実人数						
	志願者数						
	受験者数						

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入 学 定 員 充 足 率	1.05	1.05	1.05	1.03	1.05	1.05
歩 留 率	1.00	1.00	1.00	0.98	1.00	1.00

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

- ①学校選抜型推薦及び一般選抜のいずれも、実人数の箇所は、当該学科を第１志望とした人数を記載している。
- ②学校選抜型推薦について、令和２～４年度は第１志望学科のみの選抜、令和５・６年度は、第２志望学科までを含めた選抜のため、令和５・６年度の延べ人数の箇所は、当該学科を第１志望及び第２志望とした人数の合計を記載している。
- ③一般選抜による選抜について、延べ人数の箇所は、当該学科を第１～３志望とした人数の合計を記載している。
- ④一般選抜の受験者のうち、学校推薦型選抜で不合格となった人数は以下のとおり（同一受験生が、学校推薦型選抜を受験後に一般選抜を受験）。

R2：19名、R3：20名、R4：29名、R5：26名、R6：15名

(大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。)

1. 各選抜方法の状況

		R2 年度入学者	R3 年度入学者	R4 年度入学者	R5 年度入学者	R6 年度入学者	平 均	
総合型選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
辞退者数								
入学者数								
学校推薦型選抜	募集人数	20人	20人	20人	20人	20人	20人	
	延べ人数	志願者数	23人	32人	23人	29人	36人	29人
		受験者数	23人	32人	23人	29人	36人	29人
		合格者数	21人	21人	21人	20人	20人	20.6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	23人	32人	23人	20人	27人	25人
		受験者数	23人	32人	23人	20人	27人	25人
		合格者数	21人	21人	21人	20人	20人	20.6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	21人	21人	21人	20人	20人	20.6人	
	一般選抜	募集人数	20人	20人	20人	20人	20人	20人
		延べ人数	志願者数	76人	110人	55人	76人	88人
受験者数			75人	110人	54人	74人	87人	80人
合格者数			22人	21人	20人	22人	22人	21.4人
うち追加合格者数			1人	0人	0人	0人	0人	0.2人
辞退者数			3人	1人	1人	1人	0人	1.2人
実人数		志願者数	30人	49人	25人	39人	34人	35.4人
		受験者数	30人	49人	24人	38人	34人	35人
		合格者数	22人	21人	20人	22人	22人	21.4人
		うち追加合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0.2人
		辞退者数	3人	1人	1人	1人	0人	1.2人
入学者数		19人	20人	19人	21人	22人	20.2人	
共通テスト利用入試		募集人数						
		延べ人数	志願者数					
	受験者数							
	合格者数							
	うち追加合格者数							
	辞退者数							
	実人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
辞退者数								
入学者数								
その他の特別選抜	募集人数							
	延べ人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
		辞退者数						
	実人数	志願者数						
		受験者数						
		合格者数						
		うち追加合格者数						
辞退者数								
入学者数								
合計	募集人数	40人	40人	40人	40人	40人	40人	
	延べ人数	志願者数	99人	142人	78人	105人	124人	110人
		受験者数	98人	142人	77人	103人	123人	109人
		合格者数	43人	42人	41人	42人	42人	42人
		うち追加合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	1人	1人	1人	0人	1人
	実人数	志願者数	53人	81人	48人	59人	61人	60人
		受験者数	53人	81人	47人	58人	61人	60人
		合格者数	43人	42人	41人	42人	42人	42人
		うち追加合格者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
辞退者数		3人	1人	1人	1人	0人	1人	
入学者数	40人	41人	40人	41人	42人	41人		

3. 入学定員充足率

	R2 年度入学者	R3 年度入学者	R4 年度入学者	R5 年度入学者	R6 年度入学者	平 均
入 学 定 員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入 学 定 員 充 足 率	1.00	1.03	1.00	1.03	1.05	1.02
歩 留 率	0.93	0.98	0.98	0.98	1.00	0.97

(備考) 特記事項がある場合は記載すること。

- ①学校選抜型推薦及び一般選抜のいずれも、実人数の箇所は、当該学科を第1志望とした人数を記載している。
②学校選抜型推薦について、令和2～4年度は第1志望学科のみの選抜、令和5・6年度は、第2志望学科までを含めた選抜のため、令和5・6年度の延べ人数の箇所は、当該学科を第1志望及び第2志望とした人数の合計を記載している。
③一般選抜による選抜について、延べ人数の箇所は、当該学科を第1～3志望とした人数の合計を記載している。
④一般選抜の受験者のうち、学校推薦型選抜で不合格となった人数は以下のとおり（同一受験生が、学校推薦型選抜を受験後に一般選抜を受験）

R2 : 2名、R3 : 11名、R4 : 1名、R5 : 0名、R6 : 7名

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙 3

①募集を行った学科等名称及び取組の名称： 一日体験入学

	R 5 年度入試	R 6 年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	837人	935人	①取組概要 ・受験希望者を対象に本校キャンパスを開放し、既設組織の特色や養成する人材像の紹介、模擬授業、体験実習、在学生との懇談、施設案内を実施している。 ・R5年度入試対象（R2～R4開催予定→新型コロナウイルス流行のため全て中止。総数は申込受付を行ったR2、R4の2年間の申込者総数） ・R6年度入試対象（R3～R4開催中止、R5開催。総数は申込受付を行ったR4、R5の2年間の申込者総数）R5.8.6開催 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ・以前より体験入学に参加できる定員が増え、受験率と入学率はR7年度は下がる見込みとなっている。しかし、参加者の約半数が学科を決めかねているアンケート結果を踏まえると、R8年度から1学科制となることで、R7年度と比べると増加し、180名程度の入学者数を見込んでいる。
うち受験対象者数 (b)	378人	470人	
うち受験者数 (c)	216人	216人	
うち入学者数 (d)	160人	164人	
(受験率 c/b)	57.1%	46.0%	
(入学率 d/b)	42.3%	34.9%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称： 学校説明会

	R 5 年度入試	R 6 年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	656人	484人	①取組概要 ・中学生とその保護者を対象とした学校説明会。 R5年度入試対象（R2～R4開催）：計18回開催（R2=7回、R3=7回、R4=4回） R6年度入試対象（R3～R5開催）：計13回開催（R3=7回、R4=4回、R5=2回） ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ・R4年度より開催規模を縮小し、①対面（本校）と②オンライン（学外）の同時開催としている。また、体験入学の中止により、説明会の需要が高まっていたが、体験入学が開催できるようになってからは、そちらで説明を受けられるため、説明会の参加者は減少傾向にある。体験入学では実験実習の体験目的のみの参加者もいるが、こちらは受験を検討している参加者が主になるため、6割程度の入学率となっている。R8年度は学科改組の説明を予定しており参加者は増加することが見込まれる。R7年度の「うち入学者数」が83名であったため、R8年度の「うち入学者数」は90名を超えると見込んでいる。
うち受験対象者数 (b)	196人	98人	
うち受験者数 (c)	162人	68人	
うち入学者数 (d)	122人	61人	
(受験率 c/b)	82.7%	69.4%	
(入学率 d/b)	62.2%	62.2%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称： 公開講座

	R 5 年度入試	R 6 年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	160	222	①取組概要 ・本校で開催する主に小中学生向けの講座。 R5年度入試対象=R2, R3, R4、R6年度入試対象=R3, R4, R5 ・延べ人数（年に複数回参加あり） ・≠申込者 ・イベント中止の場合=0（人数に含まない） ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ・講座の対象者には小学生も含まれており、工学に興味をもってもらう第一歩（理系のたまごづくり）として開催している。 ・入学者数はほぼ横ばいになると考え、20名弱の入学者を見込んでいる。
うち受験対象者数 (b)	25	27	
うち受験者数 (c)	21	17	
うち入学者数 (d)	19	14	
(受験率 c/b)	84.0%	63.0%	
(入学率 d/b)	76.0%	51.9%	